



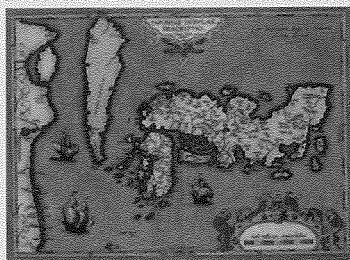
9784840622073

ISBN978-4-8406-2207-3
C3016 ¥8000E



1923016080004

八木書店
定価（本体8,000円＋税）



目次

カラー口絵
序 説

I キリシタン時代と日本

大航海時代と日本
キリシタン時代の文化と外交
〔コラム〕 コレジオ・天草移転の政治的背景
〔コラム〕 日本（府内）布教区とイエズス会日本準管区
岡 美穂子
高瀬弘一郎
鳥津亮二
岡 美穂子

II キリシタン版の印刷技術

日本の印刷史から見たキリシタン版の特徴
〔コラム〕 古活字版の起源とキリシタン版
〔コラム〕 角倉素庵とキリシタン版・古活字版・嵯峨本
林 進

III キリシタン版と信仰

対抗宗教改革と潜伏キリシタンをキリシタン版でつなぐ
〔コラム〕 キリシタン信仰の受容史
折井善果
東馬場郁生

IV キリシタン版と日本語

キリシタン語学全般
キリシタン語学の辞書
文法書
カルロス・アスンサン／豊島正之（訳・補）
アルヴァレスと『ラテン文典』について
カルロス・アスンサン／エリザベツ・コ・タシロー・ペレス／豊島正之（補）
信徒文献
〔コラム〕 キリシタン版のラテン語
〔コラム〕 プティジャン版
〔コラム〕 きりしたん版「ナバルスの懺悔」発見の顛末
〔コラム〕 キリシタン語学研究の今
白井 純
岸本恵実
川口敦子
原田裕司
高祖敏明
八木壮一
丸山 徹

附 録

キリシタン時代の人物略伝と要語集
引用文献表／基本参考書一覧
イエズス会刊行キリシタン版一覧／索引／年表

文法書

カルロス・アスンサン
豊島正之（訳・補）

一 日本布教初期の日本文法の痕跡

イエズス会士が布教現地からポルトガル・スペイン宛てに送った書簡は、東洋の地で出会った言語に就ての彼らの知見を検証する上で、重要である。

この種の書簡集の刊本の一つ一五六二年コインブラ刊本の序文で、マノエル・アルバレス^{*}は、次の様に言っている。

「インド、日本、中国、その他の地で改宗に努めつつあるパーデレやイルマンより毎年ポルトガルへ送られる書簡への希望は多く、日々の雑務もあり、手写に堪えず、前回の版より後に到着せる数点をここに版に付して、我らが事業の果実を以て類似の努めに従事する者を慰め、鼓舞せんとす。更に、この世界事業に携

わりつつある数多の者にも、我らが信仰の表明たる事業を完成させつつある書簡の主と同じく、万福を祈り、その名を記憶に留め、祝福せんとするものなり。」書簡集の校訂本の編者ガルシアは、「この種の書簡集のうち、特に出版に価した地域は日本であつて、*Cartas do Japão*（日本書簡集）の名でも知られ、一五七〇年代の出版では、それぞれ千部を超え、我々の想像する以上の部数が出ている」と言う。書簡には、処々に日本語に関する記述が見える。

バルタザール・ガゴ神父の、日本字の起源に就ての言。「二千二百年前、日本には文字は無し。その後、文字は中国より到来し、習得に辛苦あり。初めて到来せる書籍も又中国由来なり。いくばくかの文字を取り出して書き替え、中国字よりも遙かに分かり易く仕立てたるが日本文字なり」（*Cartas* I 100）

ロレンソ・メシア神父の更に詳しい報告（一五八四）。「この言語はギリシャ・ラテン語よりも更に重厚にして、余多の点に於いてそれを超え、語彙は無限にして、一事を表すに余りに多くの途ありて、此地にて二十年以上を閲する我らのみならず、日本人自身も常に学ばに余儀無き次第なり。修辞を学ぶは、良き育ちに繋がり（掛かる例は他の言語には無しと思わる）、日本に於いては、大人に対するか子供に対するか、目上・目下等、相手に応じた口の利き方を知らずしては、一言をも語る能わず、言葉の作法はあらゆる相手に就て最も厳守すべきにして、それぞれに應ずる適切な動詞・名詞・話法あり。我らは既に文法書とカレピーノ^{*}、即ち辞書は作り上げ、ニゾリオ、即ち用語宝典 [*Nizolius* の *Thesaurus Ciceronianus* 「キケロー語彙集」を指す] の編纂も緒に着きたり。書き言葉は話し言葉と大いに異なり、差異多く、且つ豊かにして、僅かな言にも多くを込めたり。その文字は無限にして、全てを知悉する者無し。アルファベットは二種〔平仮名・片仮名〕あり、各

四〇字を超え、各文字に多数の異形〔変体仮名か〕あり。加うるに中国の象形文字〔漢字〕ありて、習得に終期無し。この中国字以外にも、同じ義のために別個独自の象形文字〔国字？〕あり。書字には非常な情熱と技芸を用う。話にて表し得ぬ事は書字にて述ぶるが故なり」(Cartas 2-123)

「この言語の習得は、日本人の改宗の目標の達成に最重要なり。一五五九年十一月にルイス・ダルメイダ曰わく「主に誉れあれ、我らは皆壮健なり。いざ、この語を学びて、これらのキリシタン達を扶けん」」(Cartas 1-62)

豊後のイルマン、ジョアン・フェルナンデスも、これを強調して「キリシタンの子弟には、日本字をも教授したり。以前は、日本字はボンゾ「仏教僧侶」の寺にて学びしが、寺にてはボンゾが余多の悪き作法と悪事を子弟らに教え込み、悪魔の子弟となしたり。この改善のため、キリシタンの子弟は、須く教会へ来たりて、ドチリナ・キリシタンを学ぶと同時に日本字も学ぶべしと命じたり」(Cartas 77)

ジョアン・フェルナンデスは日本語に熟達していた事で名高い。

「日本へ来るイルマンのうち、言語に掛けては、イルマン・ジョアン・フェルナンデスに如く者を知らず、又、今後もあるうとは思われず。この若者は我と共にあるが、神の恵みに拠り、その語るや人の心を奪い、在所二十二年にして、聖書の殆どは諳んじたり」(Cartas 1-84)。「イルマン・フェルナンデスは、日本語をよく解するが故に、洗礼を経たる者の教授に専念す」(Cartas 1-101)

文法要綱や辞書への言及も見える。ルイス・フロイス^{*}神父は、一五六四年十月三日付け通信で、

「日本には、今に至るまでラテン語の機序に則る文典を欠き、言語の習得に多大の困難をかこちたるが

故に、イルマン・ジョアン・フェルナンデスは、特別の職免除を賜り、活用・過去形・統辞論その他の文法規則集と、アルファベットで書かれた辞典二つ（ポルトガル語より引くもの・日本語より引くもの）を作成せんとす。六、七箇月をこれに費やし、神のお恵みにより、終に完成す。これによ、兎徑と一段の典

故に、イルマン・ジョアン・フェルナンデスは、特別の職免除を賜り、活用・過去形・統辞論その他の文法規則集と、アルファベットの書かれた辞典二つ（ポルトガル語より引くもの・日本語より引くもの）を作成せんとす。六、七箇月をこれに費やし、神のお恵みにより、終に完成す。これには、説経と一般の典礼を含みたり。これらは、言語にて魂に果实をもたらずに、最も必要なるものの一つなればなり」(Cartas 1-146v)

ルイス・フロイスは、その著「日本史」*でも、日本語の研究に言及し、一五六〇年に改宗した日本人の医者（養方パウロ）に就て、

「日本語に通じたる人物にして、日本文典と浩瀚なる日本語辞書の著作に大いに助力せり」(Wicki, 1976-84, 1-172/173)

フロイスが、ジョアン・フェルナンデスと共同で、一五六三に開始したのは、

「最初の日本文典の素案にて、活用と統辞論を含み、辞書の素案も加えたるもの。但し、全くの初の試みにて、日本語の知識も未だ乏しく、初步的な素案に留まる。凡そ二十年の後に文典と辞書の成るの曙

光なり」(Wicki, 1976-84, 1-356/357)

ガスパール・コエリョ神父も、一五八二年の年報で、同趣の書物に言及するが、著者を明記しない。「今年、日本文典・日本語辞書、及び日本語文書の何点かの完成を見たり」(Cartas 2-28)

バルボーザ・マシヤード (Biblioteca Lusitana「ポルトガル書誌」、一七四一〜一七四八) は、バルタザール・ガゴ神父、ドウアルテ・ダ・シルバ、ガスパール・ビエラに言及する。

刊行された文法書としては、アルバレス原著の天草版「ラテン文典」*（二五九四、天草刊）が、日本語文法の嚆矢である。本書に就ては、「アルヴァレスと「ラテン文典」について」（IV部論考）を参照。

二 ジョアン・ロドリゲスの日本文典と先行の文典類

言うまでも無く、あらゆる日本語文典の中で、実際に刊行された最大且つ最も組織立った著作は、ジョアン・ロドリゲス・ツーズ（通事）のそれである。

ロドリゲスには、「日本文典」（「大文典」、一六〇四―一六〇八、長崎）と、簡潔な「小文典」（一六二〇、マカオ）の二著があり、いずれも、信仰の開拓の地にあつての、異言語接触に伴う問題・異文化の交流の現場での価値観・概念の交替に出る問題に取り組んだ著作である。

ロドリゲス「大文典」は、日本語に就ての深い知識と、豊富な用例の例示に裏付けられた画期的著作である。それは、当時の日本語の研究の資料として必須である事は勿論、日本語の諸問題に初めて取り組んだ文法書として、今日もなお参照される文学史上の金字塔でもある。

ロドリゲス「小文典」は、「大文典」の単なる簡約版ではなく、文法記述は改良・洗練され、更に第一部に於いては、教授法に特に意を用いた改訂を経ている。なお、この「小文典」は、ランドレスによる仏訳刊行（一八二五、パリ）によって、ウィルヘルム・フンボルトを初めとする西洋諸学者の日本語研究を動機付けた書でもある。

三 品 詞

品詞は、既に古代ギリシャの哲学者に知られており、ギリシャ・ラテン系の文法学者によって言葉の分類を組織化した概念であって、その文法形式化の核を成すものである。

言葉を分類する最初の試みとしては、プラトンのソピステースに見える名詞と動詞の二分法が挙げられようか。

アリストテレスは、三分法を取り、「オルガノン」では動詞・名詞の二、「詩学」「弁論術」で助辞 (particula) を加えた三とした。後に、トラキアのディオニシオスが、曲用・活用や、態・時制といった動詞の概念を加えて「文法の技法」を完成した。ここでは、品詞は、論理的な判断の概念として考えられており、名詞・動詞・分詞・冠詞・代名詞・前置詞・副詞・接続詞が挙げられ、間投詞は副詞の一部を成している。

品詞は、屈折の有無により分けられ、それぞれの中では、意味・形態の上から、名詞・動詞・分詞が取り出され、形態・統辞の上から冠詞・代名詞が、他の前置詞・副詞・接続詞は統辞的な位置による分類を取った。ウァロは、品詞を名詞・動詞・分詞・非曲用詞の四に分ける点で独特であるが、それは、「ミネルパ」の著者サンチェス・デ・ブローサスの曲用可・不可分類に承け継がれた。「品詞とは、名詞・動詞・助辞 (particula) である」。

ディオニシオスとプリスキアヌスによる品詞分類は、その後のラテン文法家に承け継がれた。エルフル

トのトマス、アントニオ・デ・ネブリーハ、エステバン・カバレイロ、ニコラウス・クレナルドウス（ニコラオ・クレナルド）、そしてマノエル・アルバレスである。

アルバレスは、伝統通りに、八品詞、名詞・代名詞・動詞・分詞・前置詞・副詞・間投詞・接続詞を立て、それぞれの分析も、それ以前の伝統を踏まえたものである。

アルバレス文典は、イエズス会の標準的ラテン語文典であり、ジョアン・ロドリゲスに最も影響を与えた文典である。その天草版（一五九四）からの直接の引用もある事が土井忠生の研究などに示されており、ロドリゲスは天草版を見ていた事は確実である。

ロドリゲス「小文典」の品詞

ロドリゲスの小文典（二六二〇、マカオ刊）では、日本語に就て「正しくは」（*fallando propriamente*）且つ「明快さのために」（*para clareza*）十品詞を認め、名詞・代名詞・動詞・分詞・後置詞・副詞・間投詞・接続詞・助辞（*particula*）・冠詞とし、「便宜的には」（*comodamente*）ラテン語と同じく八品詞に纏め得るものとした。（小文典、五二ウ）。

名詞は、実名詞と形容名詞に分ち、それぞれ単純形と複合形を区別した。

実名詞は、ラテン語文法と同じ扱いの意味分類を行ない、「固有名詞・指示名詞・集合名詞等に分かつ」（五三ウ）とする。更に、形態論的に動詞の語根に特定の音節を付加して動作者を示す実名詞を作り出す方法、動詞語根の前後に名詞を付して動作者又は道具を示す名詞を作り出す方法を示している。

ラテン語では形容詞は名詞と同じ曲用をし、名詞と同じ扱いなので、日本文典でも「形容名詞」の語を用

ラテン語では形容詞は名詞と同じ曲用をし、名詞と同じ扱いなので、日本文典でも「形容名詞」の語を用いているが、実際には、日本語の形容詞は、ラテン語の規矩とは全く異なる振る舞いをする。このため、ロドリゲスは、形容名詞を、一つは形態的に「ノ」で終わる(「諸々の」「数々の」「真の」)「本来は属格」のもの、もう一つは「本来は動詞」で、「当該活用形のみに於いて形容名詞と存在動詞の複合形となるもの」の二つに分け、後者を更に、日本語としては「本来は関係節」と見るべき「高い山」(山であって高い)、「繁い木」(木であって繁っている)の類と、「正しい意味での形容詞」(大文典)「高(山)」「黒(船)」「白(糸)」「古(道具)」の類とに分類する。この形容詞の扱いは、大文典以来の彼独自の見解である。又、日本語に所有形容詞は無く、代わりに属格形を用いるとし、「天の」「地の」「昔の」等を例示する。

なお、日本語に関係代名詞は存在せず、先行詞を動詞の直後に置く事で(「参った人」「言うた事共」)示すとするが、これは「高い山」などを「本来は関係節」とする事の根拠として、ここに述べたのである。

代名詞に就ては、日本語では代名詞が発達していない事を注意し、代名詞が尊敬又は軽侮の意を表す事、口語体・文語体で異なる事などを注意している。

動詞に就ては、肯定動詞・否定動詞に分け、更にその中を人称・非人称動詞に分かつが、人称動詞に、一、二、三人称の別は無い。能動動詞は一般動詞(そこから受動動詞が作れるもの)・使役動詞(受動動詞が作れないもの)に分ち、他に受動動詞、中性動詞(受動にならない動詞で、内部を更に通常中性動詞と絶対「再帰」中性動詞、形容中性動詞「上述の形容詞」の三種に分つ)、両者を兼ねる共通動詞に分類する。非人称動詞は、特定の人称がなく、他の動詞から導かれ、受動の意味を持つものを言う。

動詞は、形態としては、単純形と複合形に分かれ、複合形は、二つの動詞語根が連なったもの、敬語・意味の改変・強調などの助辞 *Particula* が加わったものを示す。

分詞には、過去を示す助辞を加えた形（て、で）のみを示し、日本語の現在・未来の分詞と称するもの（もの、を）は、正しくは関係節であると指摘する。

後置詞は、「名詞に後置する」という機能的特徴と「意義は我々の前置詞に相当」とする意味による指定を行なった後、実名詞に冠詞（の、に）が付いたもの、動詞の分詞で格支配するもの、等を掲げ、属格支配・与格支配・奪格・具格支配に相当するものを列挙する。副詞は、意味による規定に留まり、詳細は「大文典」に譲っている。接続詞は、連言、選言、逆接、因果、等の分類を行なっている。

助辞 *Particula* に就ては、日本語での多様さを注意し、日本側のテニハ・テニヲハの文法観を紹介し、詳細は「大文典」に譲る。冠詞 *artico* は、助辞のうち名詞に着いて格を示すものを特立したもので、これも詳細は「大文典」に譲っている。

四 終りに

ロドリゲスが、アルバレス文典の影響を受けている事は歴然だが、それ以外に、品詞の設定に於いては、アリストテレス、ウァロの流れを汲んでおり、ロドリゲス同時代人としてはバロスの影響を受け、更に、日本の伝統的なテニハ観にも従っていると言えよう。

動詞に重点が置かれた事は特筆すべきで、小文典（五二丁）では「日本人は、品詞を三つに分ける（中略）即ち、ナ（名詞で、あらゆる実名詞、接続詞、間投詞、前置詞・後置詞も含み、対応する漢字のある語のうち動詞でないも

動詞に重点が置かれた事は特筆すべきで、小文典（五二丁）では「日本人は、品詞を三つに分ける（中略）即ち、ナ（名詞で、あらゆる実名詞、接続詞、間投詞、前置詞・後置詞も含み、対応する漢字のある語のうち動詞でないもの全て）、コトバ（動詞で、存在詞を含めあらゆる動詞と形容動詞を含む）、テニハ（テニヲハ、捨て仮名、置き字とも謂い、ハ・ニ・ヲ・バの様な格の冠詞、時制やその他のあらゆる助辞で、対応する漢字が無く大和言葉であるもの全て。モ・ニモ・デ・ニテ等を含む）」としている。これは、この時代の日本の文法観の要約としては初めてのものと言つてよからう。

ロドリゲス文典がラテン文典の伝統から外れているもう一つの点は、冠詞 *artigos* である。ラテン語には冠詞は無いし、勿論、当時も現代も日本語に冠詞は無い。冠詞の語はギリシャ語文法から承け継いだものとも見えるであろうが、実際には、バロスのポルトガル語文法の影響が考えられる。この見解は、丸山徹（Maruyama, 2006）に拠るが、イエズス会経由だけでなく、ドミニコ会・フランシスコ会などからも、ネブリーハ文法と共にバロスの文法書が日本に届いていた可能性はあろう。

バロスの文法が、ラテン語の名詞曲用とポルトガル語の前置詞・冠詞縮約とを並置してポルトガル語の曲用（*declinação*）として示した事が、日本語の曲用、即ち格の明示に用いられる語を冠詞と呼ぶ根拠となった事は、（バロスを直接指示はしないものの）土井忠生（一九七六、四九七頁）も示唆している。

別品詞として助辞 *particula* を立てるのも、独特である。ロドリゲスは、小文典（五九ウ）で、会話体に於いては、テニハ・テニヲハを「うまく使えば確かで確実、直截、且つ優雅な話し方」をうみ、一方「下手に使えば野卑で誤った」話し方になると注意しており、当時の日本のテニヲハ論の影響を見せている。

*Declinações dos artigos, os quâes tam-
bem se ſeruem de relativos.*

<i>Mascul.</i>		<i>Fem.</i>
<i>Sing.</i>	<i>Plu.</i>	<i>Sing. Pl.</i>
<i>Nominatiuo—o—os</i>	<i>Nominatiuo—a—as</i>	
<i>Genitiuo—do—dos</i>	<i>Genitiuo—da—das</i>	
<i>Datiuo—ao—aos</i>	<i>Datiuo—á—ás</i>	
<i>Acusatiuo—o—os</i>	<i>Acusatiuo—a—as</i>	
<i>Vocatiuo—ó—ó</i>	<i>Vocatiuo—ó—ó</i>	
<i>Ablatiuo—do—das</i>	<i>Ablatiuo—da—das</i>	

冠詞の曲用、関係詞に用いるも可。

	男性		女性	
	単数	複数	単数	複数
主格	o	os	a	as
属格	do	dos	da	das
与格	ao	aos	á	ás
対格	o	os	a	as
呼格	ó	ó	ó	ó
奪格	do	das	da	das

訳注：属格与格奪格は、前置詞と冠詞の縮約で、それを冠詞の曲用と見なした表。呼格は、冠詞とは無関係の間投詞で埋める。

図1 バロス (1540) ポルトガル語文法
(João de Barros, Grammatica da lingua portuguesa)¹²

*teras como Ifac, Jacob. Declinação acerca da nossa
linguagem quer dizer uariacão, por que quando ua-
riamos o nome de hũ cãso ao outro em o seu artigo, e tã
ô declinamos, como se pôde uer nestas duas declinações.*

❧ Primeira declinação. ❧

a. e. i. o. u.

Numero	Singulár	Numero	Plurár.
Nominatiuo	—a rainha	Nominatiuo	—as rainhas
Genitiuo	—da rainha	Genitiuo	—das rainhas
Datiuo	—á rainha	Datiuo	—as rainhas
Accusatiuo	—a rainha	Accusatiuo	—ás rainhas
Vocatiuo	—ó rainha	Vocatiuo	—ó rainhas
Ablatiuo	—da rainha	Ablatiuo	—das rainhas

❧ Segunda declinação. ❧

l. m. r. s. z.

Numero	Singulár.	Numero	Plurár.
Nominatiuo	—o cardeal	Nominatiuo	—os cardeães
Genitiuo	—do cardeal	Genitiuo	—dos cardeães
Datiuo	—ao cardeal	Datiuo	—aos cardeães
Accusatiuo	—o cardeal	Accusatiuo	—os cardeães
Vocatiuo	—ó cardeal	Vocatiuo	—ó cardeães
Ablatiuo	—do cardeal	Ablatiuo	—dos cardeães

我らが言語での曲用（declinação）とは、名詞が、その格を別の格に変化させるときに冠詞を変化させることが即ち曲用する事なのであって、次の二つの曲用の如くである。

第一曲用 a e i o u で終わるもの

单数	複数
主格	女王（訳省略）
属格	女王の
与格	女王へ
対格	女王を
呼格	女王よ
奪格	女王より

第二曲用 l m r s z に終わるもの

单数	複数
主格	枢機卿
（以下、訳省略）	

図2 バロス（1540）ポルトガル語文法
（João de Barros, Grammatica da lingua portuguesa）13

引用文献表

- Alvarez-Taladriz, J.L. ed., 1954, *Alejandro Valignano, Sumario de las Cosas de Japón (1583)*, Sophia University.
- Alvarez-Taladriz, J.L., 1959, Un Documento de 1610 sobre el Contrato de Armação de la Nao de Trato entre Macao y Nagasaki (「天理大学学報」一一一)
- Alvarez-Taladriz, J.L., 1960, 「マカオ先生の「リベラ糖」」(「コロン」一一)
- Alvarez-Taladriz, J.L., 1968, Avisos y Reglas de los Predicadores de la Compañía de Jesús en Japón. *Bibliotheca Tenui University*, v.39.
- Alvarez-Taladriz, J.L. ed., 1998, *Alejandro Valignano, Apologia de la Compañía de Japón y China (1598)*, Osaka.
- Baroja, Julio, 2000, *Los Judios en la España Moderna y Contemporánea*, Ediciones Akal.
- Blair, Emma Helen & Robertson, James Alexander, *The Philippine Islands 1493-1898*, XIX.
- Bocarro, António, 1992, *O Livro das Plantas de todas as Fortalezas, Cidades e Povoações do Estado da Índia Oriental*, II, Instituto Cultural de Macau, Imprensa, Nacional- Casa da Moeda.
- Bodian, Miriam, 1997, *Hebrews of the Portuguese Nation: Conversos and Community in Early Modern Am-*

sterdam, Indiana University Press.

Boxer, C. R., 1974 (first published in 1951), *The Christian Century in Japan, 1549-1650*, University of California Press.

Boxer, C. R., 1959, *The Great Ship from Amacon*, Lisboa.

Boxer, C. R., 1964, Dois documentos inéditos acerca do comércio entre Macau e o Japão durante os anos de 1630-1635, *Revista Portuguesa de História*, XI-1, Coimbra.

Boxer, C. R., 1967, *The Christian Century in Japan 1549-1650*, University of California Press.

Bozzolo, Carla & Ornato, Ezio, 1980, *Pour une histoire du livre manuscrit au moyen âge*, Paris, CNRS.

Bujanda, J. M. De, 1995, *Index de L'Inquisition Portugaise, 1547, 1551, 1561, 1564, 1581*, Éditions de l'Université de Sherbrooke.

Burnell, A. C. ed., 2010, *The Voyage of John Huyghen van Linschoten to the East Indies*, I, Hakluyt Society, Cambridge University Press.

Burke, Peter, 2010 (first English ed in 2007), Culturas de Traducción en la Europa Moderna, *La traducción Cultural en la Europa Moderna*, Madrid: Akal.

Castro, Américo, 1972 (first printed in 1929), *Teresa la Santa y Otros Ensayos*, Madrid, Alfaguara.

Castro, Américo, 1981 (first printed in 1948), *The Spaniards: An Introduction to Their History*, University of California Press.

Castro, Américo, 1982 (first edition in 1954), *La Realidad Histórica de España*, Editorial Porrúa.

Conner Michael 1972, The Mechanics of the Macao-Nagasaki Silk Trade, *Monumenta Nipponica*, XXVII, 4.

- Castro, Américo, 1982 (first edition in 1954), *La Realidad Histórica de España*, Editorial Porrúa.
- Cooper, Michael, 1972, The Mechanics of the Macao-Nagasaki Silk Trade, *Monumenta Nipponica*, XXVII, 4.
- D'Elia, Pasquale M., 1942, *Fonti Ricciane*, I, Roma.
- Di Napoli Giovanni, 1963, *L'immortalità dell'anima nel Rinascimento*, Società editrice internazionale.
- Freire, António, 1993, Manuel Álvares e a repercussão da sua Gramática Latina, *Humanismo Integral*, APPACDM.
- Gândavo, Magalhães de, 1574, *Regras que ensinam a maneira de escrever e orthographia da lingua portuguesa*, Lisboa.
- Gaskell, Philip, 1972, A new introduction to bibliography, Oxford University Press.
- Gebner, von Christian Friedrich, 1740, *Die so nöthig als nützliche Buchdruckerkunst und Schriftgeßerey*, Leipzig.
- Glissen, Léon, 1972, La composition des cahiers: Le pliage du parchemin et l'imposition, *Scriptorum*, 26, Paris, BNF.
- Glissen, Léon, 1977, *Prolegomenes à la codicologie: recherches sur la constitution des cahiers et la mise en page des manuscrits médiévaux*, Gand, Éditions Scientifiques Stor.
- Godzich, Wlad, 1994, *The Culture of Literacy*, Harvard University Press.
- Gois, Damiano, 2009 (first published 1567), *Chronica do Principe dom Ioam, rei que foi destes regnos segun-*

do do nome, em que summariamente se, Biblio Life.

Granada, Luis de, 1574, *Recopilación breve del Libro de la oración y meditación hecha por F. Luis de*

Granada, hecha por el mismo autor, Salamanca: Domingo de Portonarijs.

Granada, Luis de, 1996, *Introducción del símbolo de la fe I*, ed. Álvaro Huerga, Madrid: Fundación Universitaria Española.

Granada, Luis de, 1997, *Doctrina Espiritual*, ed. A. Huerga, FUE.

Hornschuch, Hieronymus, 1608, *Orthographia: hoc est instructio operas typographicas correcturis; et adiunio scripta sua in lucem edituris utilis et necessaria*, Leipzig.

Kaneko, Hideo, 1985, Marginalia, *The Yale University Library Gazette*, vol. 59.

Kishimoto, Emi, 2006, The Process of Translation in *Dictionary Latino Lusitanicum, ac Iaponicum*, *Journal of Asian and African Studies* 72.

Lapa, Rodrigues M., ed., 1980, Couto, Diogo do, Prático, O Soldado, Lisboa.

Lash, Donald & Kley, Edwin, 1998, *Asia in the Making of Europe*, vol. 3, University of Chicago Press.

Linhares, 1937, *Diário do 3.º Conde de Linhares, Vice-Rei da Índia*, I, Lisboa.

Luz, Francisco Paulo Mendes da, 1952, *O Conselho da Índia*, Lisboa.

Lozano-Guillén, Carmen, 1992, La aportación gramatical renacentista a la luz de la tradición, Valladolid.

McCoog, Thomas M. ed., 2004, *The Mercurian Project: Forming Jesuit Culture (1573-1580)*, Rome, IHSI.

Magnino, Leo, 1947, *Pontificia Nipponica*, I, Romae.

Martin, Henri-Jean & Vezin, Jean, 1990, *Mise en page et mise en texte du livre manuscrit*, Paris, Éditions

- Magnino, Leo, 1947, *Pontificia Nipponica*, I, Romae.
- Martin, Henri-Jean & Vezin, Jean, 1990, *Mise en page et mise en texte du livre manuscrit*, Paris, Éditions du Cercle de la Librairie-Promodis.
- Maruyama, Tôru, 2006, Importância dos estudos recíprocos entre o japonês e o português dos séculos XVI e XVII, *Revista de Letras*, Universidade de Trás-os-Montes e Alto Douro, II-5.
- Maryks, Robert Aleksander, 2010, *The Jesuit Order as a Synagogue of Jews: Jesuits of Jewish Ancestry and Purity of Blood Laus in the Early Society of Jesus*, Brill.
- Matos, Manuel Cadafaz de, 1993, A produção Tipográfica da Companhia de Jesus no Oriente, Entre os Séculos XVI e XVII ao Serviço da Missão Portuguesa, *Actas do Congresso Internacional de História da Missão Portuguesa e Encontro de Culturas II*, Braga: Universidade Católica Portuguesa.
- Medina, Ruiz ed., 1995, *Documentos del Japón 1558-1562. Monumenta Historica Societatis Iesu*, vol.148.
- Menéndez y Pelayo, Marcelino, 1982 (first edition 1880-1882), *Historia de los Heterodoxos Españoles: Erasmistas y protestantes, sectas místicas, judaizantes y moriscos, artes mágicas*, Editorial Porrúa.
- Moran, James, 1973, *Printing presses: History and development from the fifteenth century to modern times*, University of California Press.
- Moxon, Joseph, 1683, *Mechanick exercises: Or the octrine of handy-works Applied to the art of printing*, London.

Novinsky, Anita, 1990, O Papel dos Judeus nos Grandes Descobrimentos, *Revista Brasileira de Historia*, 11-21, S. Paulo.

Oliveira, Ferrão de, 1536, *Grammatica da linguaem portuguesa*, Lisboa.

Oster, Nicholas, 2004, The social roots of missionary linguistics, in Otto Zwartjes et al (eds.) *Missionary Linguistics*, John Benjamins Publishing Company: Amsterdam.

Pastells, Pablo ed., 1902, Francisco Colín, *Labor Evangélica*, III, Barcelona.

Penáiver, Patricio, 1997, *La Mística Española*, Ediciones Akal.

Pérez, Joseph, 1972, *Teresa de Avila y la España de Su Tiempia*, Algaba Ediciones.

Poole, Stafford, 1999, The Politics of Limpieza de Sangre: Juan de Ovando and His Circle in the Reign of Philip II, *The Americas*, Vol. 55, No. 3, Academy of American Franciscan History.

Popescu Florin, 2003, 「『語義要録』における仮名本語と原語の綴りとの関係について」(『京都大学国文学論叢』10)

Popescu Florin, 2005, 「『語義要録』における漢字表記の本語について」(『京都大学国文学論叢』104)

Rastoin, Marc S. J., 2007, From Windfall to Fall-the converso in the Society of Jesus-, in Thomas F. Michel ed., *Friends on the Way*, New York, Fordham Univ Press.

Remédios, J. Mendes dos, 1925, Os Judeus e os Perdões Gerais de D. Manuel-D.Cardeal Rei, *Biblos*, vol.1 Coimbra.

Rodriguez, Francisco, 1931, *História da Companhia de Jesus na Assistência de Portugal*, Apostolado da Imprensa, Porto.

- Rodriguez, Francisco, 1931, *História da Companhia de Jesus na Assistência de Portugal*, Apostolado da Imprensa, Porto.
- Rodrigues, Maria Idalia Resina, 2005, Frei Luis de Granada e a Companhia de Jesus: a Convergência, *A Companhia de Jesus na Península Ibérica do sécs. XVI e XVII : Espiritualidade e Cultura : Actas do Colóquio Internacional-A Companhia de Jesus*, Universidade do Porto.
- Rummonds, Richard-Gabriel, 1998, Printing on the iron handpress, Oak Knoll Press & The British Library.
- Samaran, Charles, 1940, *Manuscripts "imposés" à la manière typographique* (Mélange en hommage à la mémoire de Fr. Martroye, Société nationale des antiquaires de France), Paris.
- Samuels, M.L., 1972, *Linguistic Evolution*, Cambridge University Press.
- Saraiva, António José, 2001, *The Marrano Factory: The Portuguese Inquisition and Its New Christians 1536-1765*, Brill.
- Schütte, Joseph, 1940, Christliche Japanische Literatur, Bilder und Druckblätter in einem unbekannten Vatikanischen Codex aus dem Jahre 1951, *Archivum Historicum Societatis Iesu*, IX, Roma.
- Schütte, Joseph, 1975, *Monumenta Historica Japoniae*, Romae.
- Schurhammer, Georg, (English version), 1973, *Francis Xavier, his life, his times: Europe, 1506-1541*, The Jesuit Historical Institute.
- Simmons, Alison, 1999, Jesuit Aristotelian education: the De anima commentaries, *The Jesuits: Cultures*,

Sciences, and the Arts, 1540-1773, Gavin Alexander et al. ed, University of Toronto Press.

Smith, Margaret, 1995, *Imposition in manuscripts: Evidence for the use of sens-sequence copying in a new fragment* (Brownrigg, Linda, Making the medieval book: Techniques of production, Anderson-Lovelace) London.

Smith-Stark, Thomas C., 2005, Phonological description in New Spain, in Otto Zwartjes et al (eds) *Missionary Linguistics II*, John Benjamins Publishing Company: Amsterdam.

Springhetti, Emilio, 1961, Storia e fortuna della grammatica di Emanuele Alvares, S. J., *Humanitas*, XIII-XIV, Coimbra.

Tavares, Maria José Ferro, 1995, *Os Judeus na Época dos Descobrimentos*, Edição ELO.

Tavares, Maria José Ferro, 1999 (first edition 1970), *Os Judeus em Portugal no Século XIV*, Guimarães Editores.

Teixeira, Manuel, 1956-1961, *Macau e a sua Diocese*, II, Macau.

Tiraboschi, Gioramo, 1812, *Storia della Letteratura Italiana*, VII-III, Firenze.

Torres, Amadeu, 1984, Humanismo Inaciano e artes de gramática: Manuel Álvares entre a ratio e o usus, *Bracara Augusta*, 38.

Torres, José Veiga, 1994, Da Repressão Religiosa para a Promoção Social. A Inquisição como instância legitimadora da promoção social da burguesia mercantil, *Revista Crítica de Ciências Sociais*, no.40.

Voet, Léon, 1991, *Christophe Plantin comme typographe et éditeur: La production et la vente de livres à l'époque de la renaissance* (Simpósio internacional sobre Cristóbal Plantino, Facultad de filología), madrid,

- Voet, Léon. 1991. *Christophe Plantin comme typographe et éditeur: La production et la vente de livres à l'époque de la renaissance* (Simposio internacional sobre Cristóbal Plantino, Facultad de filología). madrid. Universidad Complutense de Madrid.
- Wicki, Joseph ed. 1976-84, Luis Frois, *História do Japão* (1563). Lisboa, Biblioteca Nacional.
- Wicki, Josef S. J. 1977. Die "Cristãos-Novos" in der Indischen Provinz der Gesellschaft Jesu von Ignatius bis Acquaviva. *Archivum Historicum Societatis Jesu*, no.92.
- Wicki, Joseph S. J. ed. *Documenta Indica, Monumenta Historica Societatis Jesu*, vol II (1950), IX(1966), XI(1970), XII(1972), XIII(1975), XVII(1988), XVIII(1988), Romae.
- Wicki, Joseph S. J. & Gomes, John S. J. ed. *Documenta Indica*, XIV(1979), XV(1981), Romae.
- アスンサン、カルロス・豊島正之、二〇二二、『天草版ラテン文典』、八木書店
- 新井トシ、一九五八、「きりしたん版国字本の印行について 四」(『ビブリア』一二)
- 石塚晴通・豊島正之、一九九六、「スピリツアル修行」国字写本」(『東洋文庫書報』二七)
- 泉井久之助ほか訳、一九六九、『デ・サンデ天正遣欧使節記』、雄松堂書店
- 井出勝美、一九六六、「キリシタン時代に於ける日本人のキリスト教受容―キリスト教書籍を中心として」(『キリシタン研究』一二)
- 伊藤和行、一九九五、「ピエトロ・ポンボナツツイ」(根占猷一・伊藤博明・伊藤和行・加藤守通著『イタリア・ルネ